



Newsletter

No. 48

2012年7月5日

発行 レイバーネット日本

〒173-0036 東京都板橋区向原 2-22-17-108

http://www.labornetjp.org

labor-staff@labornetjp.org

電話 03-3530-8588 FAX 03-3530-8578

オキュパイ・311・脱原発 「レイバー映画祭」が今年も熱い！

2007年の「ユニオンYes! キャンペーン」をきっかけに始まった「レイバー映画祭」もことしで6回目になった。今回も世界と日本の真実に迫った新作・激作7本の充実した企画になった。二次会はいつもの会場裏手のミニ公園。「レイバー映画祭」は、映画を見るだけではない。語り合い、交流し、たっぷり英気を養う場でもある。さあ、友人を誘って7/21は田町に集まろう。(詳細はチラシをご覧ください)

- ・7月21日(土) 10.00～17.15 (開場 9.30)
- ・田町交通ビル6階ホール (JR 田町駅「芝浦口」徒歩3分)
- ・メール予約がお得です。1500円→1300円。

＜上映作品紹介＞

●「ザ・テイク (工場占拠)」(カナダ・2004年・87分) いまや資本主義は、戦争を捏造し、地震や原発事故などの大惨事を食いものにしてしか生き延びられなくなっている。これを「ショック・ドクトリン」(惨事便乗型資本主義)だと告発したのがナオミ・クラインだ。その彼女は夫のアヴィルイスと共同でつくった待望のドキュメンタリー映画「ザ・テイク」が上映される。これは「グローバリズム国家の残骸」とよばれたアルゼンチンを舞台に、工場から放り出された労働者たちが、数年後、今度は「これはオレたちの工場だ」と巻き返して占拠し、抵抗し、自主生産にふみきった闘いの記録だ。これが実にいい。廃墟と化した工場に労働者たちがやってくるシーンからはじまる。そこで機械の点検をはじめ協同組合をつくって工場を接収していく。その過程をナオミらカナダの撮影チームが密着(介入)する。彼女の本が、いかに活動の中から生まれてきたかがここからもみえてくる。映画は、労働者が自ら生産点を奪い返すことによってはじめて新しい世界をつくりだせるのだと教えてくれる。ここでも言いたい文化のないたたかいなんてありえない!(木下昌明)

●「Occupy バークレー～歴史は今よみがえる」(マブイシネコープ・2012年・35分)

ニューヨーク・ウォール街に始まったオキュパイ運動はまたたく間に全米各地へ広がった。ベトナム反戦運動の歴史をもつカリフォルニア大学バークレー校でも始まったオキュパイ運動。市民全体に生き生きと広がる姿や2011年11月15日の1万人集会の息吹を伝える。

●「渋谷ブランニューデイズ」(遠藤大輔・2011年・78分) 一人の派遣労働者が仕事と住まいを失って、路上生活に陥った。宮沢徹雄さん、52歳。やむなき事情で野宿の身となり、渋谷区役所の駐車場で寝泊まりする人々。逆境の中で、互いに支えあいながら生きるささやかなコミュニティを1年半にわたって追った、夢と希望のホームレス・ムービー!

●「64歳のデモデビュー～3.11が私を変えた」(松原明・2012年・30分) 女性の生き方がテーマのノンフィクション作家・松原惇子は、64歳まで一度もデモをしたことはなかった。しかし、3.11が何かを変えた。警察の姿に怯えながら踏み出した一歩。松原惇子が脱原発運動の中でみたものとは?

●「わたしたちは忘れない～福島 避難区域の教師たち」(湯本雅典・2012年・33分) 原発事故で周辺の学校現場はどうなったのか。学校は休校となり、教師たちも避難を余儀なくされた。生徒たちはばらばらになり、教師には過酷な「兼務発令」が出される。知られざる避難区域の教師たちの思いを記録した。

●「それでも種をまく」(国際有機農業映画祭・2011年・24分) 福島で営まれていた有機農業。しかし原発事故による放射能汚染は、その基盤を暴力



レイバーネットTV・2012年後期放送予定

毎月第2・第4木曜日 午後8時～9時15分

7/12・7/26・8/9・8/23・9/13・9/27

10/11・10/25・11/8・11/22

視聴アドレス

http://www.labornetjp.org/tv
(「レイバーネットTV」で検索)

6月24日に放送した「おかしすぎるぞ! 裁判所～法衣の犯罪を問う」は、大好評で、アーカイブアクセスも1300を越えました。今期もマスコミではできない企画をどんどんやっていきます。前回呼びかけた「TVサポーターズクラブ」にも多くの賛同が寄せられました。今後、クラブの内容を具体化していきます。「レイバーネットTV」はみんなで作るメディアです。企画持ち込み・ボランティアスタッフ大歓迎です。

ツイッターで広がる「再稼働反対」 官邸前デモ

松原 明

6月に入り、首相官邸前が燃えている。「首都圏原発連合有志」のツイッター呼びかけで広がった「原発再稼働反対！官邸前行動」（毎週金曜日）は、毎回参加者が増え、6月15日には1万1000名に達した。抗議集会に決まったプログラムはなく毎回フリーマイクで誰でも話すことができる。ただ「組織としての発言、脱原発以外の政治的発言」などは不可とし、個人が官邸に「再稼働反対」の思いをぶつける場になっている。警察の指示には従い一般歩道の歩道を確認し、午後6時から8時まで整然と行われてきた。だから参加者は、歩道沿いに長蛇の列をつくる。非暴力に徹し、だれでも参加しやすい形態。それがツイッターを通して、ジワジワと広がった。国民の「再稼働反対」の声が形になったのである。しかし、16日午前には、4閣僚が正式に大飯再稼働を最終決定してしまった。

そして、再稼働決定に抗議する「6.22超巨大抗議行動」がツイッターで呼びかけられた。果たしてどうなるのか。これまで様々な社会運動を経験してきた私は、万単位から千の単位に減るだろうと思っていた。いったん物事が決まると「あきらめる」人が出てくるからだ。ところが驚いた。その日、官邸前への人の流れは止まることなく、内閣府の建物を一周するほどになった。最終発表は4万5千人、空前の規模である。ある人がツイッターでこうつぶやいていた。「2012.6.22 あじさい革命すごかった。4万5千人が官邸前で思い思いに再稼働反対を表現してた。紫陽花革命のプラカード、あじさいの花束、タンバリン、笛、バケツで作った再稼働反対の帽子、横断幕、手書き文字、美しかった。美しかった」と。マスコミも動いた。テレビ朝日「報道ステーション」は、ヘリを飛ばし、10分も使って詳細に好意的に「6.22」を報道した。この運動は、6～7月に花開く紫陽花にちなんで、「紫陽花革命」と言われ始めている。

とにかく、女性・若者の参加者が多い。彼ら彼女らの発言を聞いていると、原発反対はもちろんだが、決定プロセスが民主的でないこと、大多数の国民の声がまったく反映されないシステムになってしまったことに怒りが集中していた。「日本は民主主義国家ではなかったのか。主権在民ではないのか。なぜ大多数の意見が無視されるのか」。そこに大きな不満があり「あたりまえの民主主義」を求めている。原発再稼働・消費税・TPPと何ひとついいことのない



政策を強引にすすめる民主党野田政権に、「もうやめてくれ」と立ちふさがる人々だった。

この運動のもう一つの特徴は、米国のオキュパイ運動などにも見られる「運動スタイルの変革」である。これまでの左翼運動のやり方とは違い、組織でなく個人をベースにした運動スタイルを意識的に採用している。だれでも気楽に参加できる場の提供に力を注ぎ、ツイッターなどネットを最大限に活用している。

私が連想したのは、2008年に韓国で起きた米国産輸入肉牛反対の韓国・巨大キャンドルデモである。この時は、テレビ番組とインターネットが火をつけ、ふつうの主婦まで参加する100万単位のデモに発展し政権を揺るがした。今回の日本の脱原発運動がこれからどう展開するかはわからない。しかし、「再稼働決定」を乗り越えて4万人以上が集まった力、そして、女性・若者が大きく動きはじめていること、1990年代からの新自由主義的政策で、社会が大きく歪み、貧富の差が拡大していること、などを考えると、官邸前の行動がブレイクする可能性は大いにあると思う。

1975年以来、30年以上も社会運動・民衆運動の停滞が続いたが、2011年3月11日をくぐった私たちには、新たな歴史的責任が生まれたと思う。いま何ができるのか、一緒に考え行動していきたい。(レイバーネット日本共同代表 6/26 記)

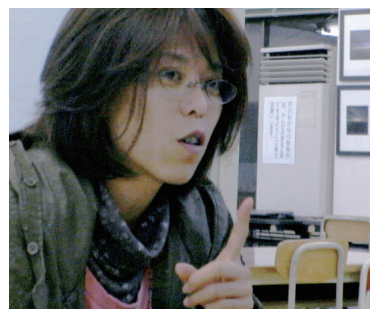
*なお、6月29日にも大規模な官邸前抗議行動が予定されている。

1ページから続き

的に破壊してしまった。失われた生態系、地域や消費者とのつながり。有機農業者たちは「つながり」を取り戻すために「それでも」種をまこうとしている。撮影＝笠原真弓ほか。

●「原発の町を追われて～避難民・双葉町の記録」(堀切さとみ・2012年・40分)福島第一原発のお膝元にあり、3・11直後、全世界が避難勧告を受けた双葉町。町は役場機能を埼玉県加須市に移

し、廃校になった高校を拠点に避難生活を送っている。原発と共にあった双葉町の人たちは、ふるさとを追われ、今何を思うのか。避難所で出会った人たちの声を集めた。



労働者の、労働者による、労働者のためのメディア 「レイバーネットTV」

小山 帥人

電波を映像に乗せて伝搬することは難しい事業だ、いや、難しかったと過去形で述べるべきだろう。本格的なテレビ放送局は莫大な設備投資が必要だが、インターネットを使った映像と音声の発信なら、誰にでも可能な時代になったからだ。

とはいえ、映像を定期的に発信するのは簡単な作業ではない。収益事業としては難しいから、志を持つボランティア活動家、しかも一定の技術を持つ人々を集めなければならない。「レイバーネットTV」は、インターネットを使って労働運動を進める「レイバーネット」のメンバーによって2010年5月に始められた。放送のスタイルは、キャスターを置き、生放送を中心にしたワイドニュース的な形式をとっている。

キャスターを務めるジャーナリストの松元ちえによると、初めはラジオをやってみたかったという。3カ国語の放送にして海外のネットラジオとつなげようと考えた。レイバーネット共同代表の松原明は、若い世代を惹きつけるためには映像を発信する方がいいと考え、当時登場したばかりの日本語版の「ユーストリーム」を使ってのテレビを提案した。

スタートしてからもまもなく2年になるが、松元ちえ、映画監督の土屋トカチ、両キャスターが番組を進行させる形は変わっていない。まず「ニュースダイジェスト」のコーナーがあり、労働問題や沖縄の基地をめぐる動きなどが伝えられる。スタート時点では若い労働者がベテラン幹部に素朴な質問をぶつける「教えておじさん!」というユニークなコーナーもあった。映画評論家の木下昌明による、労働や人権をテーマにした映画を紹介するコーナー「今月の1本」は今も続いている。このほか、川柳や歌のコーナー、ジャーナリストの山口正紀による「ピリ辛コラム」など、バラエティに富んでいる。

わたしは第1回目の生中継を鑑賞したが、音が聞こえなかったり、切り替えがスムーズにいかなかったり、カメラの前を人が横切るなど、ハラハラさせられた。もっとも、回を重ねるにつれて安定し、今年の4月で30回を越えた。機材もよくなり、随分見やすくなった。なにより自前の映像メディアによって表現しようというスタッフの意欲が感じられるのがいい。

松元キャスターは番組の冒頭、「労働者の、労働者による、労働者のためのメディア」と告げる。松元は「とにかく楽しい。一番伝えたいことを伝えることができる。広告主に遠慮するメディアがだめなのは原発報道でもはっきりした」という。土屋は「ツイッターのメッセージを伝えるなど、視聴者との結びつき」を目指している。

1年間は月に1回のペースで放送していたが、福島原発事故以来、「特集・子どもを放射能から守れ」、「被ばく労働で死にたくない」など、原発特



『宮古毎日争議』をとりあげた6月14日の放送

集が増え、放送は月に2回のペースになった。事故1周年の3月11日には、各地からの中継を入れこむスタイルをとり、オーストラリアやアメリカ、フランスなどをつなぐ長時間放送に取り組んだ。わたしも大阪の「さよなら原発集会」の模様を中継してくれと頼まれて、携帯スカイプを使って中之島公会堂周辺のデモの様子を5分ばかり中継放送してみた。結果的にはモニター画面がないため、打ち合わせのつもりがオンエアーされてしまうなど、満足のいく画面にならなかったが、生放送で地方をつなぐという点ではいい経験になった。スタジオをメインにして、各地から生の映像が入ると、構成が立体的になり、面白くなる。

松原代表は視聴者を増やしたいと思っている。現在、生放送を見ているのはせいぜい数百人と多くないが、アーカイブで番組を見る人はその10倍くらいいる。

松元は「労働問題だけを扱うのではなく、社会問題に広げたい。大手メディアにとりあげられないものを放送していきたい。本当は毎日でも放送したいくらいだ」という。楽しみながら続けてほしい。(敬称略)

*月刊「ヒューマンライツ」2012年5月号より転載

「レイバーネットTV」の財政を支えてください

この2年の試行期間を通して、充実した番組をつくっていく上で、年間最低でも50万円が必要なお知らせがありました。そこでサポーターズクラブをつくることにしました。会は正式には今秋に立ち上げますが、賛同会員をいまから募集することにしました。会費は、個人1口3000円・団体1口10000円です。サポーターズクラブの特典などは今後考えていきたいと思っております。サポーターズクラブ会費の送り先。郵便振替=00150-2-607244 レイバーネット日本

新入会員紹介

●愛と民主主義モットーに 田中伸武

争議中の宮古毎日新聞労組を6月14日放送の「レイバーネットTV」に出演させていただきました。つたない自作の闘争歌も紹介いただき、おかげで励ましの声が届きます。ネットテレビの威力を再確認しました。小生54歳の田舎記者ですが、ここ2年間は労組専従として仲間と社会のために働いています。

人生モットーは「愛と民主主義」。とはいえ、時には友愛が別の愛にふらついたり、デモクラシーがデモシカ運動だったり・・・労働組合も新聞も民衆から離れた、という批判は半分当たっていると思います。いずれも「社会からの預かり物」として本来の使命が発揮できるよう、端くれとして頑張ります。8月から地元・広島に戻りますが今後ともよろしく。(新聞労働者)



や有機農業を進めてきた流れが、来年7月の参議院選挙に候補者と立てようとしています。しかし、この流れは、労働問題には政策として掲げていますが、実際の活動は十分にできておりません。実際の労働運動とくみどりの政治との接着剤になれたらと考えています。

労働運動の現場におられる方からすると半端者ですが、研究活動からお役にたてるのが出来たらと考えております。研究ということは何か結果が出てくるまでは無為に見えます。ご辛抱強くお付き合いください。

●レイバーネットへの期待と注文 佐藤三郎

レイバーネットに参加して1ヶ月余り、僅かな期間での印象では、映像配信については期待した通りですが、メーリングリストへの投稿については少し期待はずれ、集会案内については東京方面が多いようです。これはネット参加者の多くが東京方面なのでしょう。首相官邸前、経産省前のデモやテント設置の様子などは、今後も映像紹介を宜しくお願いします。

もう2年位前になりますか、「君が代」問題で都庁包囲行動に参加して、終了後新宿西口での夕食の際、隣のボックスに包囲ネットの方がたが居て、偶然松原さんに会うことが出来ました。『君が代不起立』『死んだらヒマはない』など、心に残る映像を送り出して頂いたビデオプレスの人たちに会えて、幸いでした。

今年に入り、マブイシネコープの木村修さんを招き、私たちの会(護憲・元教職員ひょうごネット)で米オキュパイ運動の映像と取材報告を聞きました。木村さんとは1998年の神戸空港問題住民投票の取組と一緒にやりましたが、その木村さんから「松原さんに映像作りの手ほどきを受け、カメラを担いで渡米した」話を聞き、我らの運動を支える「人間のつながり」に、不思議な思いと励ましを貰いました。

なお、月1回『京阪神「市民活動」掲示板69号』を発信しています。(憲法の改悪に反対する元教職員ひょうごネットワーク)



●岩国基地問題を発信したい 板橋めぐみ

アジア共同行動(AWC)九州・山口の板橋と申します。米海兵隊・岩国基地反対や上関原発建設反対などの課題に取り組んでいます。岩国情報を中心に発信しようと思っています。岩国基地は、「沖縄の負担軽減」の合唱の影で、新滑走路、新港湾、空母艦載機移駐、米軍住宅、オスプレイの配備と雪崩のように基地強化の攻撃が強まっています。東アジア最大の米軍基地へと位置付けなおされている中、岩国市民による粘り強い基地反対運動は継続しています。毎月1、11、21日の三回、愛宕山神社前で「愛宕山の見守りの集い(座り込み)」にも取り組んでいます。是非全国から応援に駆けつけてください。今後とも、よろしくお願ひします。

●労働運動と「みどりの政治」をつなげたい 前川武志

レイバーネットの世界ではほとんど議論になっていないことですが、7月末にくみどりの党を立ち上げる動きがあります。

地方議員として、環境問題に取り組んできた流れ

レイバーネット日本の会員になりませんか

現会員数 504名

ウェブアクセス 1日 2000

会員になれば、自分でニュースやイベント、お知らせを提供できます。レイバーネット日本は組合で個人で全国にアピールする絶好の場所です。

年会費 3,000円

郵便振替 00150-2-607244 レイバーネット日本
郵送宛先 〒173-0036 東京都板橋区向原 2-22-17-108

レイバーネット日本事務局

入会申込用アドレス apply@labornet.jp.org

電話 03-3530-8588 ファクス 03-3530-8578